

豚熱ワクチン接種農場における豚熱の患畜確認に伴う今後の発生予防対策（要約版）

令和3年1月15日
家畜衛生部会
牛豚等疾病小委員会
拡大豚熱疫学調査チーム

豚熱ワクチン接種農場においては、以下に示すウイルスの農場への侵入防止措置を一層徹底する必要がある。

（1）衛生管理区域への野生動物の侵入防止対策及び人や車両の進入時の衛生対策

衛生管理区域内への野生いのしし等の侵入を防ぐため、防護柵等の設置を徹底する必要がある。また、車両が衛生管理区域に進入する際には、十分な圧力のある動力噴霧機等により、適切に洗浄と消毒を行う必要がある。

（2）作業着、手袋及び長靴の交換並びに交差汚染防止

豚舎ごとの手指の洗浄・消毒や手袋の交換、豚舎ごとの靴や衣服の交換等の取組が必要である。靴や衣服等の交換の前後で交差汚染が起こる可能性があるため、交換前後の動線を完全に遮断するといった措置を講ずる必要がある。

（3）ワクチン接種農場における免疫を獲得していない豚群への対応

母豚からの移行抗体が低下するワクチン接種前の離乳豚や、ワクチン接種ができない出荷間近の肥育豚を飼養する豚舎等については、特に感染が起こりやすいことを念頭に置いて、飼養衛生管理をより一層、徹底する必要がある。

（4）敷料の衛生対策

敷料は直接豚に触れるもので、経口的に豚の体内に入る可能性もあるため、敷料を保管する際、ブルーシートや建屋で覆うことにより、野生動物や野鳥の接触がないように徹底する必要がある。

（5）消毒液の選択及び交換頻度

消毒に当たっては、用途や温度条件等を勘案し、消毒効果が十分に得られる方法を選択する必要がある。

（6）農場内作業動線及び作業手順

屋外の通路の清掃、消毒を徹底することは難しいため、豚舎間の豚の移動の際には、可能な限り消毒済みのケージ等を利用することが適当である。

（7）教育訓練等

飼養管理の際の衛生対策は、作業に携わる全ての者が毎日欠かさずに実施することが重要であるため、飼養管理を行う者を明確にし、消毒や作業手順について要点を文書や図として整理するとともに、定期的な教育や訓練を徹底することが重要である。

（以上）